第３章　市民自治を考える市民ワークショップの実施

１　情報提供

（１）情報提供①「『市民自治』と『札幌市自治基本条例』」について

札幌市市民文化局市民自治推進課より、札幌市の市民自治基本条例ができた背景や内容、市民自治の理念について情報提供を行った。

（２）情報提供②市民自治を進める３要素と具体例・事例について

総合ファシリテーターの株式会社 Glocal Design 酒本氏より、市民自治基本条例における理念「市民が主体となって考え、話し合い、まちづくりの行動をする」について「知る」「意見する」「活動する」の３つの要素から情報提供を行った。

＜市民自治の３つの要素＞

■知る

①広報さっぽろやパンフレットなど

・毎月発行される広報さっぽろや各区のお知らせ、パンフレットなど

②札幌市ホームページや SNS（Facebook、LINE など）

・市の現状や課題、制度・事業・計画についてホームページや SNS などで公開しています。

③テレビ、ラジオの広報番組

・市のニュースや地域の魅力などの情報を発信しています。

④出前講座

・市の職員が出向き、市の仕事やまちづくりについてわかりやすく説明します。

■意見する

①アンケート

・市政に関してアンケートに答えてもらいます。

②パブリックコメント

・計画や条例の最終案を作る前に、事前に公表し、市民の皆さんに意見を聴くことをいいます。

③全市的なテーマのワークショップ

・ワークショップで行政や施策などに理解を深めてもらいながら、意見などを出してもらいます。

④審議会・委員会への参加（公募委員）

・審議会は、市からの意見を求められた事項を調査・審査し、それに対する意見を述べる機関です。

■活動する

①町内会活動

②身近なまちづくりへの参加（地域レベルのワークショップ）

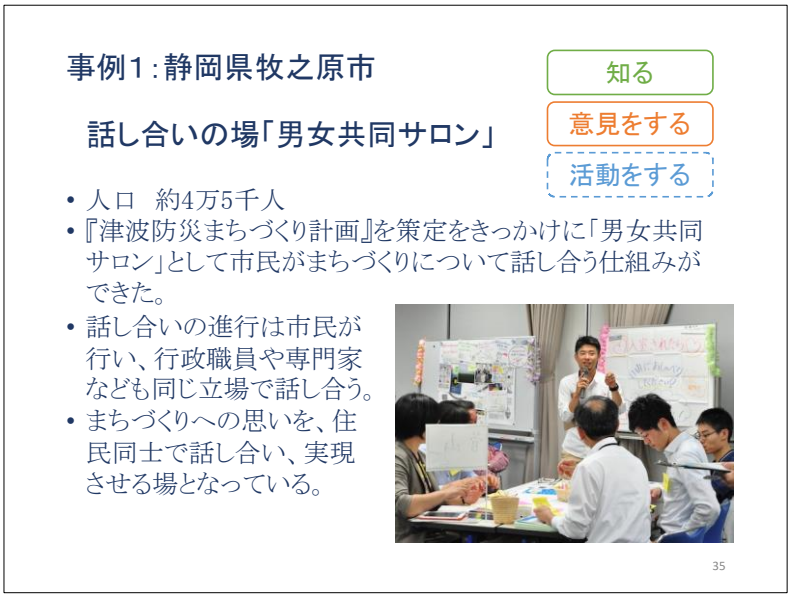
③NPO 活動

④PTA 活動

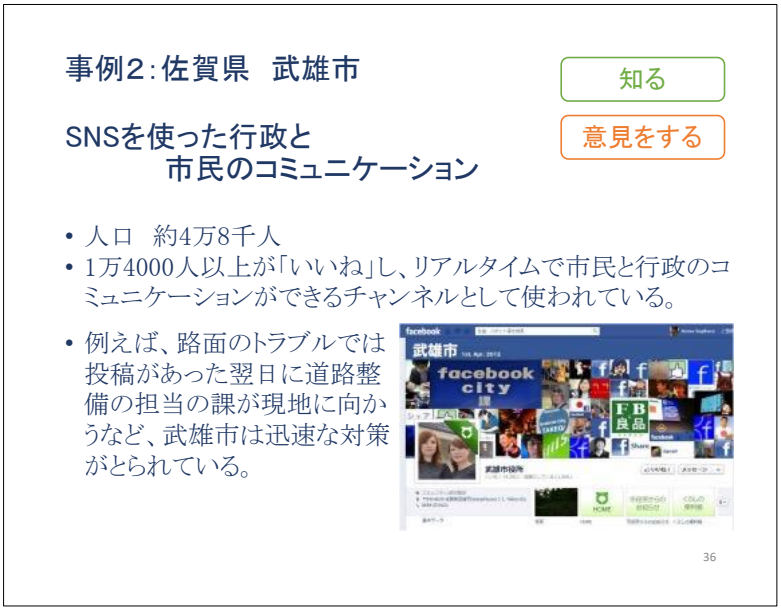
⑤ボランティア活動

＜市民自治について考えを深める事例＞

■事例１：静岡県牧之原市　話し合いの場「男女共同サロン」



■事例２：佐賀県　武雄市　SNS を使った行政と市民のコミュニケーション



■事例３：神奈川県　横浜市　財政のみえる化と官民連携の提案窓口

事例3：神奈川県　横浜市

知る

意見をする

財政のみえる化と官民連携の提案窓口

- 人口　約372万人
- WEBサイト「横浜市財政見える化ダッシュボード」を開設し、民間事業者の皆様が、各予算事業に対して公民連携の提案ができる機能をつけている。
- 民間事業者からの連携に関する相談・提案を受け付ける総合窓口として、「共創フロント」を設置し、運用。
- 各予算事業ページに「提案ボタン」があり、事業の提案ができるようになっている。

37

■事例４：富山県　氷見市　市役所庁舎・フューチャーセンター

事例4：富山県　氷見市

知る

意見をする

活動をする

市役所庁舎・フューチャーセンター

- 人口　約4万8千人
- 「氷見市を市民と行政が一番近い街にしたい」という市長の考えから、多様な主体が対話を通じて問題解決を考え、実行する場を市役所庁舎を設けた。
- フューチャーセンターは市民やNPOなどさまざまな人が出入りし、話し合い、クリエイティブな対話を促す場となっています。
- 市民との協働をコーディネートする役割として、地域担当職員を配置しています。

38

（３）情報提供③市民自治があるまちのイメージ先進事例

市民自治が進んでいるまちのイメージを膨らませるため、市政レベル／区～学区レベル／地域コミュニティレベルのそれぞれの先進事例を紹介した。

■事例１：島根県　海士町　総合計画策定から町民主体のまちづくり活動（市政レベル）

事例1：島根県　海士町

総合計画策定から町民主体のまちづくり活動

- 人口　約2,300人
- 第4次総合振興計画「島の幸福論」の策定をきっかけに町民参加のまちづくりが進展
- 別冊「海士町をつくる24の提案」など、町民自らまちづくりに関わるための手引書などを作成
- 町民参加のまちづくりをきっかけにまちづくりに関わる人材育成が進み、今ではさまざまな町民主体のまちづくり動きが進んでいる

48

商品開発

島宿の立ち上げ

高校魅力化プロジェクト（廃校を防ぐ）

交流人口を増やす会員制コミュニティ

49

■事例２：札幌市清田区　きよたまちづくり区民会議　行政と連携した区民主体のまちづくりを動かす仕組み（区～学区レベル）

事例2：札幌市清田区　きよたまちづくり区民会議

行政と連携した区民主体のまちづくりを動かす仕組み

- 人口　約11万2千人
- 清田区のまちづくりについて、区民が集まって話し合い、考え、そして行動するため、各地区町内会連合会をはじめさまざまな団体の代表者で構成している
- 区民会議で話し合ったアイディアをもとにした事業が実現され、清田区のにぎわいづくりや魅力発信につながっている

50

きよたマルシェ＆きよフェス

まちの灯りinきよた

51

■事例３：神奈川県　横浜市 美晴台町内会　地域の課題解決から生まれたゆるやかなつながり（地域コミュニティレベル）

事例3：神奈川県　横浜市 美晴台町内会

地域の課題解決から生まれたゆるやかなつながり

- 世帯数　約700戸
- 碁盤目状の道路、整然とした宅地が広がっているため、コミュニケーションや防災防犯のため、道に愛称をつける取組を町内会から市に提案
- 横浜市の補助金を受けながら、子どもたちと愛称を考えたり、看板を設置
- 「道に愛称をつける会」から子ども向けイベントを開催するチーム、町内の助け合いチームなど、さまざまなチームが発生し、連携しながら地域運営している。

52

- 活動によって住みやすく、個性ある、親しみやすいまちとして知名度が上がった
- 特に子どもたちの保護者にとって「住みやすい地域」として移住希望者が多く、空き家がでない地域となった

電信柱に設置した愛称

53

２　ワークショップ

（1）ワークショップ①『まちの課題から解決までを考え、市民自治を考えましょう』

札幌市における「市民自治」と「札幌市自治基本条例」の情報提供や、他都市の市民自治の事例紹介（情報提供①・②）を受け、「自分たちのまちをより良くするために“市民が主体となって考え、話し合い、行動する”」という市民自治の理念を体感するために、普段の生活の中で、感じているまちの課題をあげ、それらを解決するための方法を話し合った。まちの課題をあげる際には、「高齢化」「子育て」「環境」など８つのテーマを例として出し、意見を促した。

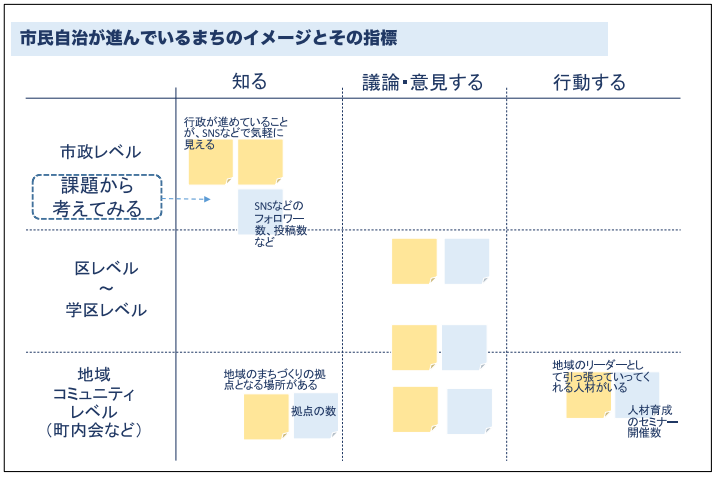
意見交換のポイント

○普段の生活の中で、感じているまちの課題をあげてみてください。

○グループ内で、あがったまちの課題から、1 つか 2 つ選んで、その解決方法を話し合って下さい。

（2）ワークショップ②「市民自治が進んでいるまちってどんなまち？」

ワークショップ①で 市民自治を体感し、考えを深めたのち、ワークショップ②では市民自治があるまちのイメージ先進事例（情報提供③）を参考に、市民自治が進んでいるまちのイメージを具体的に考えた。どのような人がどのような方法で取り組むシーンがイメージされるか、また、それらを評価する指標についての意見も促した。



意見交換はワークシートを用いて行った。

意見交換のポイント

○市民自治が進んでいるまちのイメージを具体的に考えてみます。

○どのような人がどのような方法で取り組むシーンがイメージされますか。

○それらを評価する指標も考えてみましょう。

（３）ワークショップの結果

１）Ａグループの意見のまとめ

＜ワークショップ１の主な意見＞

①普段の生活の中で、感じているまちの課題

・歩道のバリアフリー化が進んでいない

・町内会の情報が届かなくて町内会のことがよくわからない

・高齢化社会に進み高齢者の見守りが必要になっている

・地域コミュニティでの多世代のふれあいや学ぶ機会が減っている

・町内会組織の担い手不足で組織が立ち行かない

・町内会の活動がニーズと乖離がある

②まちの課題の解決方法

●多世代のふれあいや学ぶ機会が減っていることに対する解決方法

・地域に情報や交流の拠点をつくる（知る）

・議論する場をつくる（議論）

・拠点として図書館やカフェが望ましい

・一緒に行動する人を探すほか、気軽に参加できるようにする（行動する）

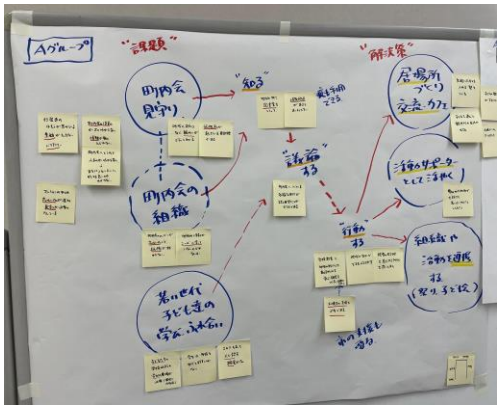
●町内会組織の担い手不足で組織が立ち行かないことに対する解決方法

・会員ニーズの情報を得る（知る）

・地域の多様な世代の人が集まり議論する（議論）

・町内会活動をサポートしてくれる人材を発掘する（行動する）

・若い人にも参加してもらえるようにインセンティブを与える



＜ワークショップ２の主な意見＞

	知る	意見する・議論する	行動する
市政レベル テーマ 子どもの教育格差の解決	・学校での教育格差があることを知ってもらう	・企業や教育分野に関わる NPO などとだれもが勉強できる体制や仕組みづくりについて話し合う	・学校と連携して小中学校の放課後、教室を開放する ・企業や NPO に子ども対して授業を行ってもらう ・教育格差に取り組む企業にインセンティブを与える
区レベル テーマ 多世代の交流の促進について	・YouTube でまちの紹介をし、知ってもらう	・町内会の役員と学生などが交流する企画について議論する	・商店街空きスペースを活用して交流スペース（まちの図書館）を設ける
地域レベル テーマ 高齢者の見守り・居住者の孤独解消	・人との関わりが全くないと孤独を感じる ・SNS で町内会の活動情報を入手できるようにする	・住民が見守りなどの必要性について話し合う	・カフェなど連携して見守りにつながる顔合わせ会などを行う ・若い世代も情報を受け取りやすくするために SNS で町内会の情報を発信する

２）Ｂグループの意見のまとめ

＜ワークショップ１の主な意見＞

①普段の生活の中で、感じているまちの課題

・防災の対策

・除雪が大変

・ヤングケアラーへの対策

・助けを必要としている人がわからない

・助けを必要としていても手をあげることができない

・サポートがあることを知らない

・町内会の人手不足

②まちの課題の解決方法

●除雪、防災の解決策

・他の地域を参考にする

・お互い助け合う

●ヤングケアラーや助けを必要としている人への解決策

・各区でどのぐらい必要な人がいるか把握する

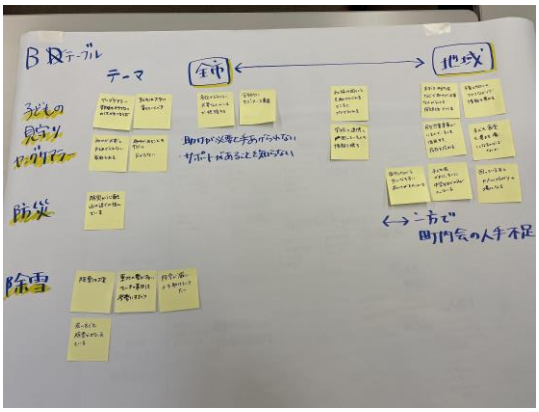
・助けが必要な人がわかるようにする、情報を集めやすくする

・町内会で関係性を作る、集まる場所を作る

例）子育てサロンのママ友だち、子ども食堂、子ども会など

●町内会の人手不足の解決策

・全市でサポーターを募集する



＜ワークショップ２の主な意見＞

	知る	意見する・議論する	行動する
市政レベル	・取り組みをするための基礎データの調査、公開	・ホームページ等で意見、要望を(本人以外も)気軽に発信できるようにする ・多世代が参加できるようにする	・社会課題を解決に支援する企業と繋げる
区レベル		・話し合いの場所づくり ・若い方も参加できる議論の場	・サポート体制を作る
地域レベル	・情報を回覧板でまわす	・サポート体制を作る	・中心となるリーダーやサポート出来る人を集める ・会議など人が集まる場を増やす ・町内会で子育てサロンを行う

３）Ｃグループの意見のまとめ

＜ワークショップ１の主な意見＞

①普段の生活の中で、感じているまちの課題

・町内会活動への参加が消極的

・町内会を解散しているところがある

・町内会の役割がわからない

・学習の機会が少ない、図書館の図書が少ない

・環境保全(ゴミを減らす)

・社会問題(特殊詐欺の増加、失業者の増加)

・どこで支援をしてもらえるかがわかりにくい

・支援の場所が少ない

②まちの課題の解決方法

●町内会活動

・情報の伝え方を工夫する

●学習の機会

・図書館の書籍をクラウドファンディングや寄付で集める

●環境保全

・町内会から情報発信をする

・進め方、伝え方を工夫する

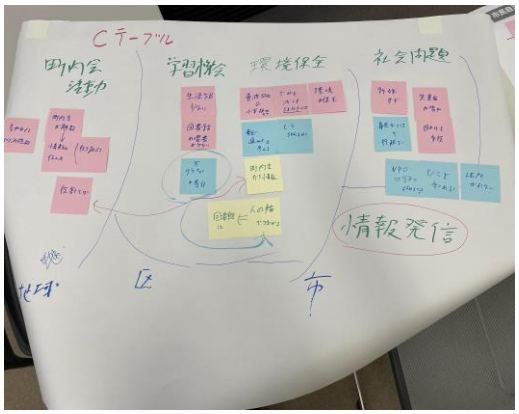
・図書館で集まり”人の輪”で繋がる

●社会問題

・身近なところで助け合う

・行政で助ける(NPO など)

→全市的に進めるにはどうしたらいいか



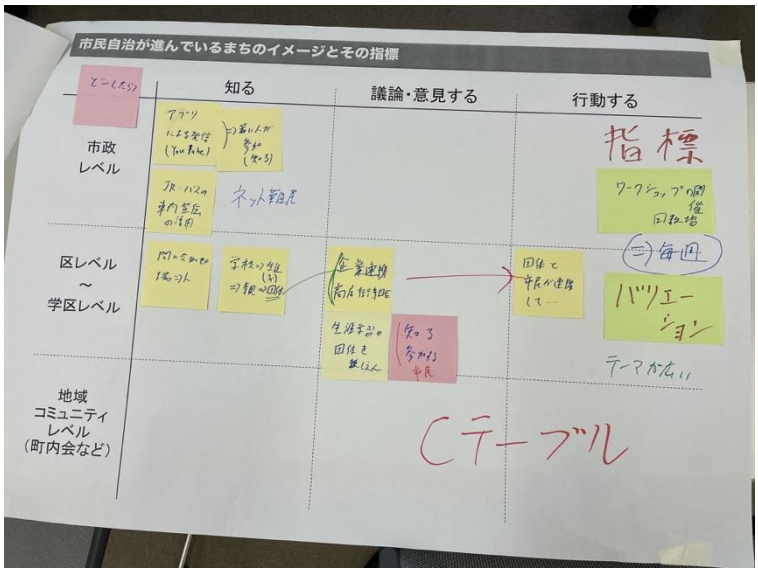
＜ワークショップ２の主な意見＞

	知る	意見する・議論する	行動する
市政レベル	・アプリで手軽に情報を見ることができる ・YouTube など動画で見ることができる ・JR、バスなどの車内広告を活用する ・インターネットで情報を発信することで、若い人への参加を促す		
区レベル	・問い合わせの応対を対人で行う ・学校でチラシを配布し生徒から親に伝える	・企業や商店街組合と連携する ・生涯学習の団体を支援する ・参加する市民を増やす	・団体と市民が連携出来るようにする
地域レベル			

評価指標

・ワークショップ開催回数

・様々なテーマの意見交換会の開催回数



４）Ｄグループの意見のまとめ

＜ワークショップ１の主な意見＞

①普段の生活の中で、感じているまちの課題

テーマ　自治会、マンション管理組合に参加する人を増やしたい

・参加者不足

・助け合いの空気づくりを強化したい

・プライバシーの問題もあり、活動が難しい場面がある

・どう参加すれば良いのかわからない人が多い

・一人暮らしの高齢者

・人によって受け止め方が違うため、高齢者の基準がわからない

・自治会やマンション組合について知りたいが知る機会がない

②まちの課題の解決方法

テーマ　自治会、マンション管理組合に参加する人を増やしたい

・どんな人が住んでいるかを把握する

・「何かやっている」と知るきっかけとなるイベントの実施

・子どもへの声かけ

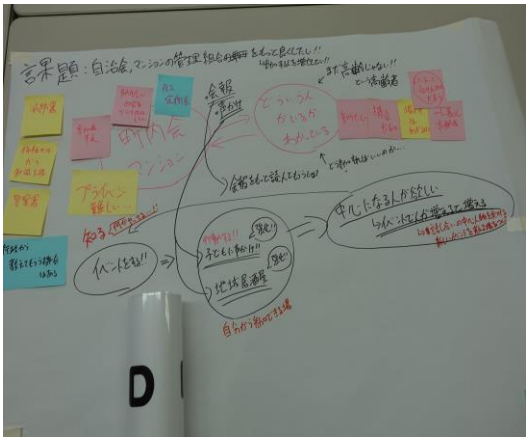
・地域の居酒屋などでの声掛け

・自分から参加できる場

・読んでもらう工夫がされている会報をつくる

・消防署、警察署、福祉センターなどからの知識支援の場をつくる

・話し合いの中心となる人物の発掘



＜ワークショップ２の主な意見＞

	知る	意見する・議論する	行動する
市政レベル	・楽しい話題を知ることができる ・議会、議員行政とのつながりがある （指標） ・SNS のフォロワー数	・市職員と気軽にやりとりできる ・数区で議論する場がある （指標） ・市職員も参加するワークショップの開催数	・声かけ、SNS、広報で伝達する ・町内会への支援 ・イベントに行く （指標） ・市は場所（web）づくり ・市民は情報発信数
区レベル	・いろんな属性からつながっていくイベントなどきっかけが多い	・区レベルの議会がある ・決定権がある ・役員のサロンがある ・複数の町内会で議論できる場がある （指標） ・市民から意見を受けた数	・案を出す ・行動する ・力仕事をする ・お金を出す ・声を出す ・区全体のイベントがある （指標） ・参加企業の数
地域レベル	・地域の取り組みを知るイベントがよくある ・広報（ビラ・ホームページなど）が充実している ・会報やおたより、掲示板などを活用している （指標） ・イベントの参加人数	・議論の場がある。 ・資金や規制など行政の支援がある。 （指標） ・拠点の数	・地域の中心になる人がいる。 （指標） ・人材セミナーの開催数 ・イベントの開催数

５）Ｅグループの意見のまとめ

＜ワークショップ１の主な意見＞

①普段の生活の中で、感じているまちの課題

・大雪による除雪不足

・ブラックアウトなどの自然災害が起こった時のライフラインの確保

・働いている人などが緊急の時のこどもの預け先がない

・子ども（ママさん）をケアする場がない

・自治会費の徴収が難しい

・新しいマンションだと町内会活動について知らせることができない

・地域の銭湯が廃業している

→店主の高齢化と担い手不足が原因

・ゴミの問題

・歩道の除雪不足による歩行の危険

②まちの課題の解決方法

●除雪不足

・通学路が塞がってしまうので、地域での子どもの登下校の見守りが必要

・除排雪を行う時間帯を検討することが必要

（通勤通学が多いところは夜、少ないところは日中に行うなど）

・高齢者だけでなく、全ての人が危険と感じているので歩道の確保が必要

●自然災害の時のライフラインの確保

・生活用水を運ぶなど高齢者に向けた配慮やサポート

・地域の銭湯を災害時は水資源として活用する

●子育てのケア

・一方通行ではなく、欲しい情報を得ることができるようにする

・地下鉄等、普段使っているところで児童会館の詳しい情報を得ることが出来るようにする

●地域の問題

・地域の問題をワークショップで議論し解決する場を作る

・担い手不足はやりたい人をマッチングできる活動を行う

・行政が色々な地域の課題を集め、この解決に向けて活動できる人を募集する基盤を作る

・自分の持っている情報を伝える情報の受け皿が必要

・まちづくりセンターを活用する

→地域の人が情報を持ち寄り、これを市の職員が聞き、解決方法を探る

子どもたちを預ける場所になり、ここでは地域の高齢者が子どもの面倒をみるなど

・自分たちの地域レベルで情報を確認したり提供したりできるアプリを開発する

・人の確保と運営ができる組織づくり

情報のキャッチボール基地
知る
議論する

知る
議論・意見する
行動する
市政
レベル
区レベル
～
学区レベル
地域
コミュニティ
レベル
（町内会など）
Eグループ
情報のキャッチボール基地

＜ワークショップ２の主な意見＞

	知る	意見する・議論する	行動する
市政レベル	・子ども・除雪・銭湯などの情報を届けてほしい	・まちづくりセンターなど地域の施設を活用し、市・地域など様々な人が集まり課題を共有し解決を議論する場所がある	・子どもを見てあげる（高齢者・地域の方） ・身近な人に自分の情報を伝えていく ・行政の人が地域に来て地域レベルの情報を知ってもらう ・ボランティアで運営を手伝う
区レベル	・目に留まるところにもっと情報がある ・地下鉄・バス・お店など地域住民の生活に密着した場所で情報を手に入れることができる場所を設置する	・必ず市に情報が届く情報基地を設置する ・議論できなくてもここに来ると目安箱などがあり、ここを必ず市の職員が確認しに来て課題が必ず市に届くという仕組みになることが必要である ・１箇所ではなく各地域ごとに設置することが必要 ・堅苦しい雰囲気ではなく、知らない人だからこそ話せる、気持ちが暖かくなるような場所になることが望ましい	
地域レベル		・住民が課題や問題など情報を市に伝える ・これを対面での検討する場を設け、市の担当者が詳しいことを確認しにいく ・この対話によって、お互いの解決の方法を探る ・コミュニケーションができる地域の場づくり ・双方向のやりとりできるようなＳＮＳの開設（ツイッターなど） 指標：情報量の多さ	